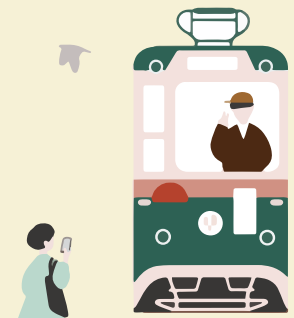
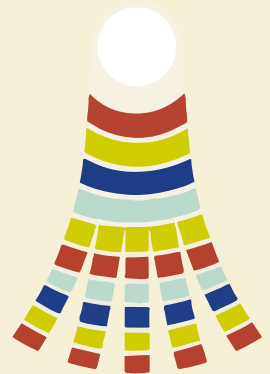
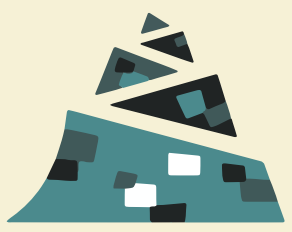
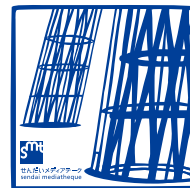
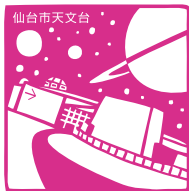




# けん せん だい けん だい けん だい かん だい 見 験 図 鑑





# けんけんずかん せんだい見験図鑑のつかいかた

この図鑑は、仙台のミュージアムの集まりである仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA) という団体が作りました。でも、ミュージアムを紹介する図鑑ではありません。むしろミュージアムのそと、まちなかを歩きながら身近に見たり、体験できる、さまざまな「たからもの」や「おもしろいもの」をとりあげています。

ふだん見慣れた風景やまちなみの中にも、眼をこらしてみると、いつもとまったく違う輝きや奥深さ、不思議さに気づかされることがあります。またそこには豊かな歴史もあります。「見験図鑑」は、そんな発見に満ちたまち歩き無限の可能性から、誰にも親しみやすい視点を集め、専門の学芸員の協力のもとで紹介しています。

ここでとりあげた話題のなかに、なにかひとつでも興味をもてそうなものがあったら、ぜひまちに出て確かめてください。もっとくわしく知りたいときは、どうかその先を、ご自分で調べたり、専門のミュージアムで深めてみてください。私たちのミュージアムや学芸員たちが、そんな「見験」まち歩きの案内役にもなるはずですよ。

- 04 化石
- 06 城の石垣
- 08 市電
- 12 まちを彩る祭り 今昔
- 14 さえずりの季節
- 16 木の実
- 18 石
- 20 文化の居場所
- 22 時計
- 24 水
- 26 未来への取り組み
- 28 出会う場所 MAP
- 32 SMMAのあゆみ  
コラム1  
コラム2  
よみもの大集合
- 44 SMMAについて/ミュージアム情報

## 本書のみかた

① 各ページで紹介した場所は「出会う場所 MAP」P28～31をご覧ください。

### 見験ミュージアム

② 「見験ミュージアム」とは各ページに情報を提供したミュージアムです。ミュージアムの情報はP44～47をご覧ください。



# 化石

## じつは身近にある化石たち



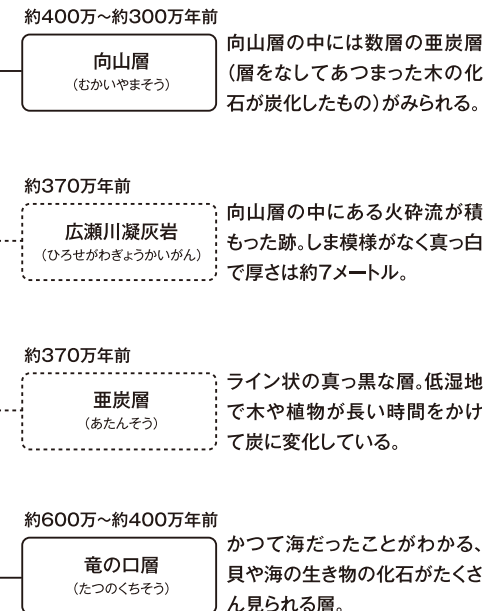
仙台のまちなかを流れ、市民に親しまれている広瀬川。わたしたちにとっては日常の眺めですが、この広瀬川をよく観察してみたことはありませんか？たとえば、特徴的なのは、広瀬川にある崖。この崖の断面に見える地層から、数百万年前の仙台の歴史を知ることができるのです。しま模様のない白い岩肌部分からわかることは、仙台市内はかつて厚い火山灰に覆われた時代があったということ。そして、その火山灰が森の木々をなぎ倒し根本部分を飲み込んで化石にしているということ。さらにその下にあるもっと古い時代の層、広瀬川の川面に近い部分からわかるのは、仙台は海だったということ。青葉山周辺でも数十メートルの水深があったと言われていました。火山活動や地殻変動、さらに海水準変動などの影響をうけつつ、今の仙

台の大地はつくられてきたのです。そのことがわかる木と貝の化石たちを、今も広瀬川で見ることができます。双眼鏡を持って地層も見ながら散歩をすると、土地の成り立ちや歴史を感じることができますよ。

【木の化石】珪化木(けいかぼく)

約370万年前の大火砕流によってなぎ倒された木の根元が化石となったもの。なぎ倒された当時樹齢800年とみられることから、この周辺はかつて大森林だったことがわかる。

## 仙台の大地の歴史がわかる 広瀬川の地層



## 【貝の化石】

- |  |  |
|--|--|
| <p>① センダイヌメハマグリ</p> <p>ハマグリやアサリの仲間、広瀬川にある貝化石で最も多い。成長脈*1が明瞭でごく弱い放射肋*2が見られることがある。形は殻頂*3を中心に左右非対称で丸みを帯びた三角形ないし台形。</p> | <p>② タツノクチサルボウガイ</p> <p>強い放射肋と成長脈が組み合わさって、格子模様になっている。形は殻頂を中心に左右非対称で箱形。</p>       |
| <p>③ ゴウロクタマキガイ</p> <p>これも成長脈と放射肋があるが、タツノクチサルボウガイとの違いは、形が左右対称で丸形。内側の歯の部分を見ても明確に区別できる。</p>                           | <p>④ タカハシホタテ</p> <p>その名の通りホタテ貝の仲間、大きい目につきやすい。発見者の名前に由来。グローブを思わせるような強い放射肋が特徴。</p> |

\*1 成長脈(せいちょうみやく)…成長線に沿う高まり。これが太くなると輪肋(りんろく)という。  
\*2 放射肋(ほうしゃろく)…輪肋に対し縦に放射状に出る畝(うね)。  
\*3 殻頂(かくちょう)…殻の成長の原点。

①～③ スリーエム仙台市科学館所蔵 ④ 東北大学総合学術博物館所蔵

## 【発見ポイント】

- |  |  |
|--|--|
| <p><b>地層</b> 仲の瀬橋(なかのせはし)付近</p> <p>仲の瀬橋の川内側の河原に降りると、対岸の崖の地層を観察できる。都心部ではほかにも、花壇の河原の対岸にある経ヶ峯(きょうがみね)の崖、広瀬川緑地の対岸にある崖などでも見られる。</p> | <p><b>貝の化石</b> 地下鉄東西線の橋付近</p> <p>地下鉄東西線の橋の下、川内側の川岸では、大量の貝化石(シェルベッド)を見ることができ。貝化石のある竜の口層(※上図参照)は、川岸の崖や水辺で見られることが多いが、観察する場合には水かさなど安全に注意が必要。</p> |
| <p><b>珪化木</b> 霊屋橋(おたまやばし)付近</p> <p>霊屋橋の遊歩道入り口付近に、化石林の案内板がある。その案内板の脇に立って広瀬川をのぞくと、直径約140cmにもなる珪化木が見える。</p>                       | <p>シェルベッドとは、落ち葉が風で集められるように、死んだ貝の貝殻が海の流れて集められた吹きだまり。嵐や津波によって一気にたまったと考えられるものもある。たまにクジラなどの化石が混じっていることも!</p>                                     |

# 城の石垣

## 石垣は一日にしてならず

詰まっています。仙台には、「仙台城」の本丸北側に高さ最大17メートルにもなる大迫力の石垣が修復されて残されています。仙台城跡を訪れたら、石垣の前に立ち、下から見上げてみましょう。ここで汗を流した人たちのエネルギーを感じられるかもしれません。

城の石垣とは、石を積み上げて作る防備の一つ。戦国時代から作られはじめ、江戸時代に普遍化しますが、単に石を高く積んでいるだけではありません。石を切り出し、形を整え、地震などが来てもくずれないようにすき間なく積みでいく。こうして作られた石垣には、江戸時代の人たちの「知恵」と「工夫」と「高い技術力」が

出会う場所  
MAP  
P30C

### ここを見よ！

「隅石(すみいし)」と呼ばれる石垣の「角」に注目。角部分はくずれやすいため、他の箇所よりも大きめの石を使っていねいに築かれます。隅石を観察すると、石積みの技術や職人たちの心意気が見てとれます。

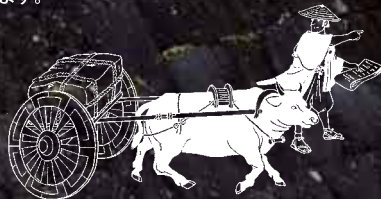
### こんなふうに積んでいた

江戸時代初期の石垣は、ほとんど加工していない自然の石を積み上げる方法で作られていました。その後、加工した石をすき間なく積む「切込み接(はぎ)」など、よりくずれにくい積み方に進化していきました。



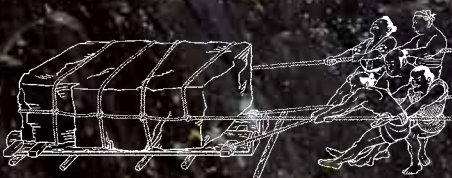
### 使われたのはこんな石

仙台城の石垣には、国見峠周辺(現在の青葉区国見)の山から切り出した石(三滝玄武岩)が使われています。石の運搬には牛がつかわれ、現在の「牛越橋」は牛が広瀬川を渡っていた地点であること、「唸(うな)り坂」は急勾配で石を引く牛の群れが唸ったことが名前の由来とも言われます。



### こんなふうに運んでいた

地面の上に「ころ」と呼ばれる木材を置き、その上に「修羅」と呼ばれるソリをのせ、その上に木材を置いて大勢の人間が綱を引いて運んでいました。仙台城でもそうした方法が用いられたとみられます。



### つくり手はこんな人

「石垣奉行」「石工棟梁」などと呼ばれる人たちが上方(京都・大阪)から招かれ、現場の指揮をとっていました。仙台城の石垣は、上方から招かれた石工職人によって積み上げられました。彼らが集住した場所が石切町(現在の青葉区八幡二丁目)と呼ばれたと言われています。

### 仙台城見聞館

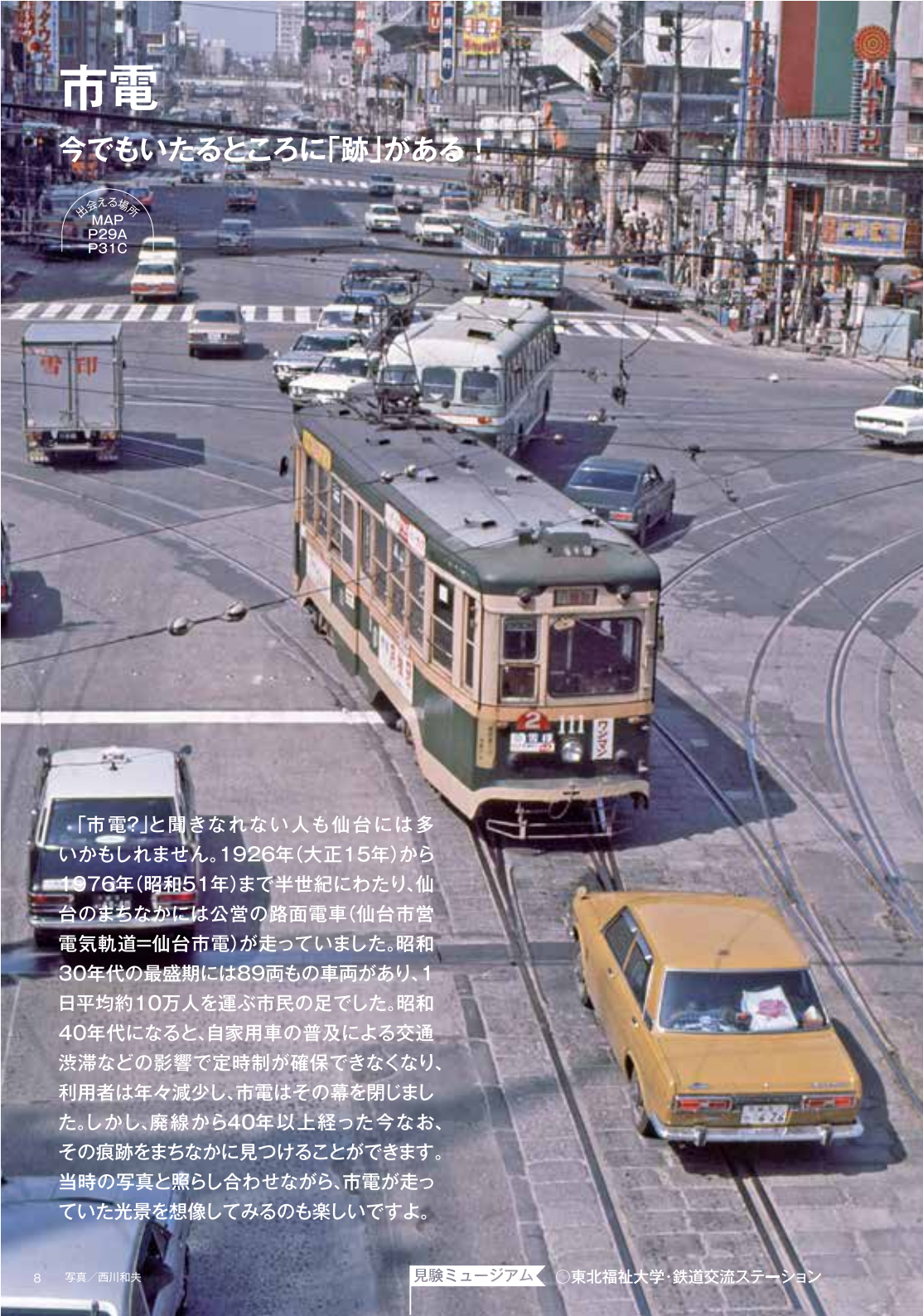
仙台藩の儀式や政務を執り行った本丸天広間に関連した展示をはじめ、仙台城の歴史や発掘調査結果などを紹介する施設です。復元模型や映像上映などもあります。

【開館時間】9:00 - 17:00 (年中無休)  
仙台市青葉区川内1-11 (仙台城本丸跡・伊達政宗騎馬像西側)  
TEL: 022-214-8544 (仙台市文化財課)

# 市電

今でもいたるところに「跡」がある！

出会える場所  
MAP  
P29A  
P31C



「市電？」と聞きなれない人も仙台には多いかもしれません。1926年(大正15年)から1976年(昭和51年)まで半世紀にわたり、仙台のまちなかには公営の路面電車(仙台市営電気軌道=仙台市電)が走っていました。昭和30年代の最盛期には89両もの車両があり、1日平均約10万人を運ぶ市民の足でした。昭和40年代になると、自家用車の普及による交通渋滞などの影響で定時制が確保できなくなり、利用者は年々減少し、市電はその幕を閉じました。しかし、廃線から40年以上経った今なお、その痕跡をまちなかで見つけることができます。当時の写真と照らし合わせながら、市電が走っていた光景を想像してみるのも楽しいですよ。

## 市電の跡 その①

市電が走っていた時代、東二番丁通は市役所と勾当台公園の間を現在の三越ビルに向かってまっすぐ南下し、クランクして、さらに北目町方向に南下していました。市電・環状線の軌道はこの道の中央部を走っており、県庁市役所前から当時の勾当台公園の外周をまわり、クランクせずに現在の錦町公園の方に伸びていました。

1975年(昭和50年)の航空写真



出典/国土地理院撮影の空中写真(1975年9月11日撮影)

■ =現在の東二番丁通 ■ =当時の市電の軌道

勾当台公園は、市電が廃止されたあと、地下鉄南北線の工事に伴う東二番丁通の軌道変更により新道路で分断されて、飛び地となった部分はいまの市民広場・円形広場の方に吸収されました。

現役時代の市電の写真を見ると、勾当台公園の外周にはヒマラヤ杉が植えられているのがわかります。仙台市公園課によると、地下鉄工事のときに一度移植されて、整備終了後にまた同じ場所に植え戻されたとのこと。つまり、この木が昭和50年当時の勾当台公園の端の目印。光のページェントのときにシンボルツリーとなっている、あのヒマラヤ杉です。

1969年(昭和44年)の勾当台公園を曲がっていく市電の軌道



第一生命ビルは建設中(写真右) 写真/平田 誠

2020年(令和2年)の円形広場付近



現在のココ!

約50年でヒマラヤ杉もたいぶ育ちました。

第一生命ビル(昭和45年竣工)とヒマラヤ杉の間あたりがかつての道路と市電が走っていた道、ということになる。

東二番丁通 × 青葉通の交差点にある地下道。そこにも市電の遺物が。

## 市電の跡 その②

地下道の床面に使われている石は、かつて市電の軌道に使われていた敷石を再利用したものです。廃線後、市電の敷石は仙台市民に販売されました。それを、東二番丁通の改良工事に伴い、地下道の整備に使わせて欲しいとの建設省の要請を受けて、仙台市や市民の有志によって1992年(平成4年)に集められました。集まった敷石は広場部分の床材になりましたが、凸凹していたためきれいに磨き上げられたのが現在の姿です。しかし、一部分だけ凸凹のまま残された箇所があります。



凸凹が磨きなおされずにそのまま残っている箇所。



実物の車両はここで!

## 仙台市電保存館

大正末期から半世紀にわたり仙台の街を走り続けてきた市電の姿を伝える施設として、創業当時の1号車など市電車両や関係資料の展示、ビデオ上映などがあります。また、記念撮影用に地下鉄運転士の制服もあります。



[開館時間] 10:00-16:00

[休館日] 月曜日(月曜が祝日の場合は翌日)、祝日の翌日

(土・日曜日・祝日に当たる場合は開館)、12/28~1/3

※冬期間(12/1~翌年3/19)は土・日曜日・祝日(日曜日が祝日の場合、翌日も開館)を除き休館

仙台市太白区富沢字中河原2-1 地下鉄富沢車両基地内  
TEL:022-244-1267

## 片平丁小学校歩道橋



市電がこの歩道橋の下を走っていた痕跡が残っています。

## 市電の跡 その③

高等裁判所の前にある片平丁小学校前歩道橋の下には、かつて市電が走っていました。この場所は市電の停留所(裁判所前)だったので、当時はその乗り場に降りることができるように歩道橋の途中にも階段がついていました。その階段を撤去した跡、架線の接触防止ガードの部材、碇子(がいし)が今もまだ残っています。しかし、この歩道橋もやがてその姿を消してしまうかもしれません。



## 1971年(昭和46年)の片平丁小学校歩道橋の下を走る市電



架線を吊るす碇子や接触防止ガード、階段を支える支柱が見える。写真/平田 誠

## 昭和40年代片平丁小学校歩道橋を通過する市電



歩道橋から乗り場(高等裁判所前)へ下りる階段が2列設置されているのがわかる。写真/亀谷 英輝

# まちを彩る祭り 今昔

## 仙台の祭りのルーツを知る



仙台の風物詩といえば、春は「青葉まつり」、夏は「七夕まつり」。現代は季節ごとのまちの景観や、装飾・パフォーマンスを楽しむ観光要素も多いのですが、それぞれの祭りの「ルーツ」はご存じでしょうか。何を目的に始まり、どんな

ふうに変化したか、その移り変わりには意外なエピソードが隠れていることも。ルーツを知ってから訪れてみると、おなじみの祭りに新たな気づきがたくさんまれるかもしれません。

### 青葉まつり



「東照宮祭礼図・渡物」  
江戸時代の仙台祭の山鉾が描かれた版画  
仙台市歴史民俗資料館所蔵

① 江戸時代は徳川家康をまつる東照宮の「仙台祭」が仙台最大のお祭りです。町衆が作る山車(山鉾)が城下を練り歩きました。

明治時代に伊達政宗をまつる青葉神社が創建され、明治18年の祭礼では仙台祭で登場した山車が巡行されました。



「青葉神社祭典」  
1907年(明治40年)~1918年(大正7年)頃の青葉神社祭典の様子 仙台市歴史民俗資料館所蔵



「仙台招魂祭 山鉾図」  
仙台招魂祭の山鉾を描いた明治時代の浮世絵  
仙台市歴史民俗資料館所蔵

② 引き継がれた山車は、戦死者をまつる招魂祭や、伊達政宗の記念祭などにも出されましたが、道路の電線の増加に伴い下火に。



華やかなパレードが市内メイン道路で練り広げられる 写真提供:宮城県観光課

昭和60年、「仙台・青葉まつり」が開始され、仙台祭を模した山鉾や新しくアレンジされた「すずめ踊り」も加わりました。

### 七夕まつり



「参詣記」  
評定河原橋から七夕飾りを流す様子が描かれる  
仙台市博物館所蔵

仙台城下では、七夕に五色の短冊に詩歌を書いたものを笹竹に飾り、翌朝広瀬川に笹ごと飾りを流す行事がありました。



明治時代、まちなかの飾りに裁縫学校の作品も加わるなどしたことで徐々に華やかに。七夕飾りが人びとを集めるようになりました。



「彩られし七夕飾りの豪華版」  
戦前の大町五丁目より新伝馬町方面  
仙台市歴史民俗資料館所蔵



「七夕飾りの豪華版」  
1937年(昭和12年)の東一番丁北部の飾り物  
仙台市歴史民俗資料館所蔵

③ 商店街ではお中元商戦のお客を呼ぶため、大きな飾りをつけるように。戦前にはぎやかな「仕掛物」が目を引きました。



繁華街の一番町、中央通りでは豪華絢爛な竹飾りが並ぶ 写真提供:宮城県観光課

戦争で中断したあと、復活した七夕は仙台観光の目玉として発展し、今では前夜祭の花火も加わって賑わっています。



# さえずりの季節

## 「聞きなし」でたどる、鳥の気配

仙台は、まちなかに大きな公園がたくさんあります。なかでも地下鉄南北線台原駅と旭ヶ丘駅にまたがる「台原森林公園」は、市街地の一角でありながら豊かな森林が広がります。その環境から、さまざまな種類の野鳥たちのすみかにもなっています。木々の上を飛び回る鳥たちの姿は人の目にふれにくく、慣れないと見分けることは難しいのですが、3月から6月ごろになると状況が変わります。繁殖期をむかえた鳥たちのにぎやかなさえずりが、いたるところから聞こえてくるのです。地鳴きと呼ばれる日常

的な鳴き声とは違い、自分を最大限アピールするさえずりは種ごとに異なり、それぞれ美しく複雑です。そんなさえずりを、人びとは人間の言葉に置き換えて聞き取ってきました。それが「聞きなし」です。森林公園を歩きながら「あれ、どこかで聞いたような鳥の声?」と思ったら、よくよく耳を澄ましてみてください。うまくすると、これらのさえずりの先に、華やかなコスチュームをまとった歌手の姿を見つけることができるかもしれません。

出会う場所  
MAP  
P29A



ホトギス

聞きなし

## 特許許可局 テッペンカケタカ

キョツ キョツ キョキョキョキョ

## 長兵衛忠兵衛、長忠兵衛

聞きなし

チイチイチイーチーチー



メジロ



ツバメ

聞きなし

## 土くって虫くって、洗い

チュロリチュロリ チュリチュリ ジュリリ



センダイムクイ

聞きなし

## 焼酎一杯、グイー

チョチョ ビー

### 本で出会う仙台・宮城に棲む鳥

## ちょっと来い、ちょっと来い

ピッポグイー、ピッポグイー

聞きなし



コジュクイ

「スリーエム仙台市科学館」では、年1回「大人の科学教室」として野鳥観察会を開催しています。また、館内の常設展示ではホトギス、センダイムクイのさえずりを聞くことができます。



「空にみすつみ」  
佐伯一孝/著

大震災から3年後の仙台が舞台とされる物語。作家の早瀬と染色家の袖子の夫婦の日常がアオバスク、センダイムクイ、ホトギス、ガビチョウなどさまざまな野鳥の話とともに描かれる。



「みやぎの昔ばなし 心をぬくめる21話」  
佐々木 徳夫/文 阿部 笹子/絵

「時鳥と兄弟」に、弟に腹を切られてカッコウになった兄鳥と、兄の話を信じずホトギスになった弟鳥の鳴き声にまつわる民話を収録。



栗駒山南山麓の昔語り  
『むがす むがす ずうっとむがす』  
佐藤 玲子/語り 小野 和子/編者

ヤマバトを題材にした「山バトの夫婦」を収録。母鳥を奪われた子鳥たちの鳴き声(聞きなし)にまつわる物語が描かれている。

\*これらは仙台文学館の情報コーナーで読むことができます。

# 木の実

かたちは似ていても個性いろいろ



＼ ドングリ 見つかるヒント /

## 広葉樹

(広くて平べったい葉っぱ)



広葉樹には、ある季節など定期的に葉を落とす「落葉樹(らくようじゅ)」、幹や枝に一年を通じて緑の葉がついている「常緑樹(じょうりょくじゅ)」の2種類あります。ドングリの種類を見わける際は、ドングリの近くに落ち葉があるかどうか手掛かりになります。

殻斗(かくと)  
実に栄養を送っていた跡。  
ぼうしのような部分。



堅果(けんか)  
固く乾燥した果実、  
またはその皮のこと。

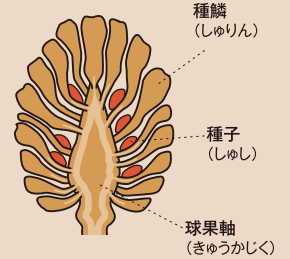
＼ まつぼっくり 見つかるヒント /

## 針葉樹

(細く尖っているような葉っぱ)



マツやスギなど針のような形をした葉をもつ木です。これらは裸子植物(らししょくぶつ)で、種となる部分が心皮などに包まれていない裸の状態で落ちます。まつぼっくりも、種鱗の間に小さな種子が付いています。(右図参照)



## コナラ

落葉広葉樹



いわゆるドングリの代名詞的な存在。細長い楕円形で、殻斗が細かいうろこ状なのが特徴。

見つかる場所 東北大学植物園  
台原森林公園

## シラカシ

常緑広葉樹



殻斗には6段ほどの横じま模様がある。また、堅果の半分を覆うほどの大きさの特徴。

見つかる場所 西公園  
台原森林公園

## アカマツ



名前のおり木肌が赤い松。松島に生えている松も「アカマツ」である。アカマツの球果(まつぼっくり)は4~5cmで、他と比べて小さめ。

見つかる場所 東北大学植物園  
勾当台公園 台原森林公園

## シダーローズ(ヒマラヤスギ)



球果全体は約10cmもあり、ずっしりと重い。それが乾燥しバラの花のように残った先端部分が「シダーローズ」と呼ばれる。

見つかる場所 東北大学植物園  
西公園 勾当台公園  
仙台文学館 台原森林公園

## アラカシ

常緑広葉樹



堅果は、樽のような形で縦じまが目立つ。殻斗は横じま模様。ドングリのなかで最も実りが遅く、落下しないものもある。

見つかる場所 西公園  
台原森林公園

## オニグルミ

落葉広葉樹



川沿いや適度に湿った場所に生えていることが多く、枝先に長く垂れ下がるように咲く雄花が特徴。私たちが食するのは堅い核の中の種子。

見つかる場所 西公園  
台原森林公園

## 貴重なまつぼっくり

地底の森ミュージアムには、約2万年前の環境を復元した野外展示「氷河期の森」があり、ここでしか見ることができないまつぼっくりがあります!

### アカエゾマツ

富沢遺跡\*で典型例が発見された絶滅種「トミザフトウヒ」の近縁種。北海道の山地や岩手県早池峰山などに生息。



### グイマツ

南千島の針葉樹林帯に生育し、サハリン・東シベリア・中国東北部・モンゴル東北部に分布するマツ。



\*富沢遺跡

地下鉄南北線建設に伴う試掘調査を機に発見。その範囲は、鹿野・長町・長町南・泉崎・富沢の各地に及び、約90ヘクタールもの広さになる。この地で営まれた先人の生活跡のほか、針葉樹の根や葉、昆虫、シカのフンなど2万年前の森の跡もまるごと見つかった。

チョウセンゴヨウ  
本州(中部)・四国(愛媛県東赤石山)の山地に生育し、朝鮮・中国東北部に分布。種子は「松の実」として食される。



## 生きている化石!?

イチョウ(ぎんなん)は広くて平べったい葉ですが広葉樹ではなく、イチョウ科イチョウ属という唯一の種です。雌雄異株(1つの花におしべとめしべがあるのではなく雄花と雌花に分かれる)で、ぎんなんは実ではなく全体が種子です。およそ3億年を生きてきた植物で、2億年前に恐竜の進化と合わせて世界中に広まりましたが、一時期日本列島から絶滅。しかし中国の一部で自生していたものが見つかり、鎌倉時代末(14世紀)頃に中国から渡来してきたと推測されています。



見つかる場所 西公園 勾当台公園  
台原森林公園

## 木の実に作る「縄文クッキー」

稲作が普及するよりずっと前、お米を食べるよりも先に縄文人は木の実を食べていました。縄文時代の遺跡から発見されるのが、木の実などを砕いて固め焼き上げたクッキーのようなもの。仙台市縄文の森広場では、ドングリを用いたクッキーを作る体験もあります。



# 石

## 地元出身の石たち

私たちがふだんにする石の多くは、もともとその形でそこにあったのではなく、大きな岩から自然の力で割れ落ちたり削り取られて流されてきたものか、もしくは人の力で切り取られたり運ばれてきたりしたものか、どちらかであると言えるでしょう。まちなかの建物などに

は遠く海外から輸入された美しい石も多く使われており、私たちの目を楽しませてくれますが、地元の石たちも私たちの土地の特徴を教えてください。仙台ならではの石材として世界の石たちと肩を並べてがんばっています。



### 山から運ぶ海の砂

#### 校庭の砂

石ではありませんが、同じく地層から採れるもののひとつに「砂」があります。仙台市内のほぼすべての校庭の砂は、大和町や利府町の周辺や、川崎町支倉地区、涌谷町の笹岳(ののだけ)などの砂取り場から運ばれています。これらは「海成層」というかつて海の底にたまった地層の砂なので、よく目を凝らして見ると、1cmほどの小さなサメの歯の化石が見つかることも。以前、向山高等学校の校庭から、1500万年前の「パレオパラドキシア」という哺乳類の歯が出たこともあります。



広瀬川の河岸



ひろせがわぎょうかいがん  
広瀬川凝灰岩

広瀬川の川岸で拾える石は、上流の岩が川によって削り取られ運ばれたり、周辺の崖がくずれたもので、石の種類から上流域や周辺の地質を知ることができる。比較的多い白っぽい軽石は、市街地の川沿いに広く分布する広瀬川凝灰岩に由来。およそ370万年前に近くで激しい噴火が起きた際に流れ出した火砕流が積もって固まったもので、硬そうに見えるがもろい。

仙台城の石垣



みたきげんぶがんせんたいいし  
三滝玄武岩(仙台石)

石垣を構成する黒っぽくて硬い石は、玄武岩という火山岩で、三滝玄武岩、仙台石などと呼ばれる。約600万年前に流れやすい溶岩を出す火山があった国見地域の旧三滝温泉あたりで切り出されていた。古い家や神社、お寺の土台や石垣にもよく使われ、とても硬いのが特徴。

松島海岸の堤防



写真提供/株式会社みかけ屋



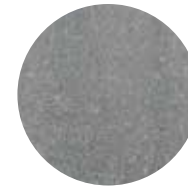
あきういし  
秋保石

広瀬川凝灰岩に似ているがさらに上流の秋保地域でとれる軽石凝灰岩が「秋保石」。火に強く、長持ちし、湿気を吸う性質があるため、むかしは大事なものを保管する蔵の壁などに使われていた。松島海岸の堤防は、東日本大震災から復興するにあたり、松島の景観となじむように島の岩肌とおなじ色の秋保石が選ばれた。

芭蕉の辻の道標



写真/FIREFLY 平山 彩



いないし  
井内石

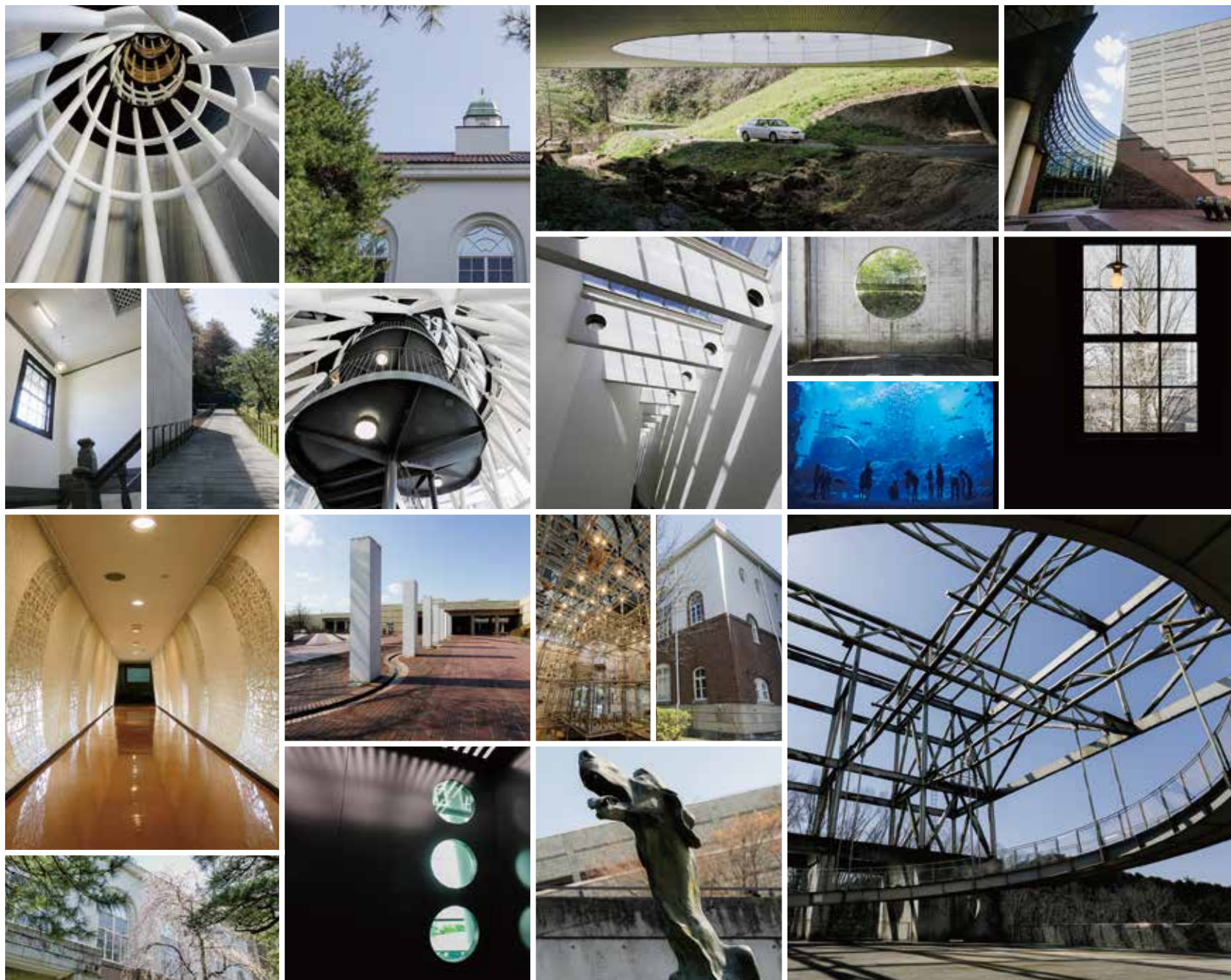
石巻湾に注ぐ旧北上川沿いの井内地区でとれる石で、中生代三畳紀に堆積した地層にある。重くどっしりと重厚感があり、美しい石目が特徴。文字を刻むと鮮明な白が浮かび上がる。ほかに、瑞鳳殿(仙台市)、鹽竈神社(塩竈市)、瑞巖寺(松島町)などでも見ることができる。

# 文化の 居場所

出会う場所  
MAP  
P29A  
P30・31C

## まちなみとしてのミュージアム

まちを歩いている途中、ふときれいな建物やまちなみが目にとまり、思わず立ち止まってしまふことってありませんか。きれいというだけでなく、たとえば落ち着くとか、わくわくするとか、なんだかそこに居たくなるような。誰でも一度はそんな体験をしたことがあるのではないのでしょうか。そういった場所が、時として本来の使い道や機能とは違ったかたちで、私たちの心を豊かにしてくれています。とりわけ、ミュージアムなどの文化施設は、まちの文化を支える特別の思いをもって生まれ、人びとに守られてきた場所でもあります。散歩がてら、まちなみの延長にあるミュージアムの空間をじっくり味わいながら、私たちが大切にしたい文化について思いを馳せてみませんか。そんな視線が、まちをもっともっと豊かなものにしていくはずですよ。



A～Gは下の「見験ミュージアム」参照

A	D	C		E
B	C	A	C	F
				G
				B
C	E	F	D	F
D	A	E		

### 宮城県美術館

【開館時間】9:30 - 17:00 【休館日】月曜日  
 (ただし祝日・休日にあたる場合は開館し、原則として翌平日が休館)  
 仙台市青葉区川内元支倉34-1 TEL:022-221-2111

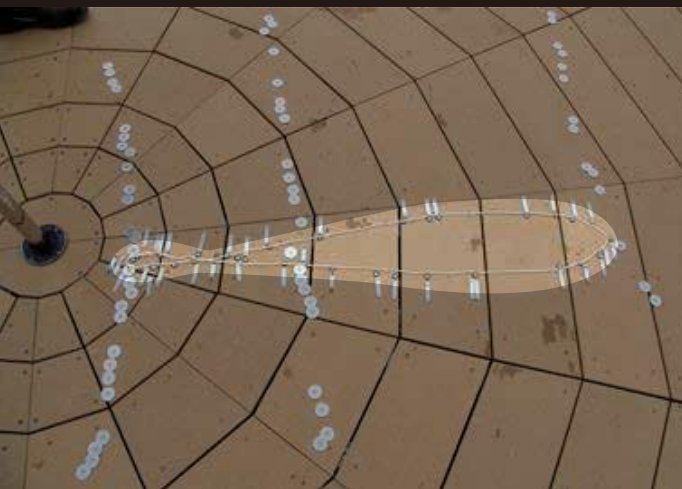
# 時計

## 時を知る方法はいろいろある

出会う場所  
MAP  
P28・29A

現代ではどこにでも時計があり、腕時計や携帯電話も普及し、気になったときにすぐ時間を知ることができます。では、時計がなければ時を知ることができないのかというと、そんなことはありません。先人たちは、太陽や、水が落ちる速度や、星の動きでおおよその時間を知ることができていたのです。登山家が太陽の位置で方角を知るように、自然の動きを手掛かりに時を知られるようになったら、なんだか格好いいと思いませんか？

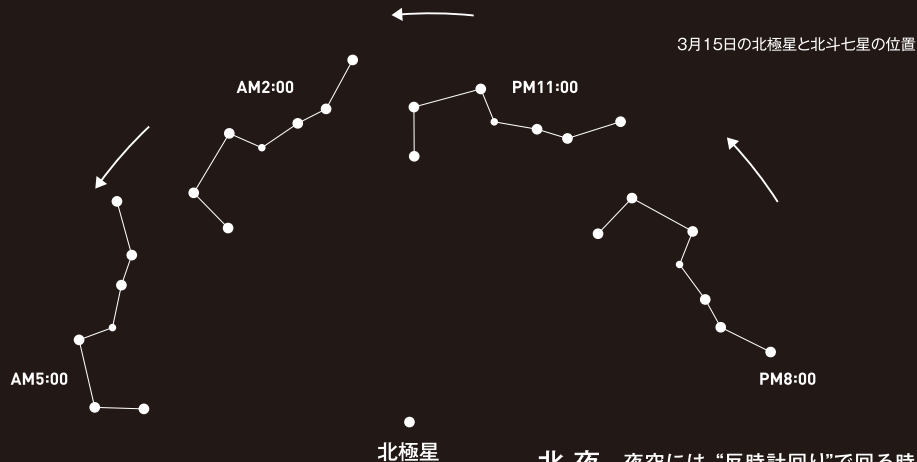
8の字を描く太陽の軌跡は「アナレクサ」とよばれます。仙台市天文台では年間を通して太陽の位置の記録を取るワークショップを開催しています。



### 人類史上最も古い 天体観測装置が「日時計」



太陽は私たち人間にとって最も身近で、その生活に深く関わってきた天体です。大昔から人々は、太陽の動きを見て、季節の変化や時間の変化を知るようになりました。そして生み出されたのが日時計です。日時計の原理はとてもシンプルで、太陽の日周運動による棒の影の動きを読み取るだけです。しかし、厳密に考えてみると奥が深いことがわかります。地球の自転周期はほぼ一定です。しかし、実は太陽との位置関係を考えると、地上から見た太陽の動きは年間を通じて等速ではありません。1日ごとに最大約30秒も変化し、その積み重ねによって日時計で計る時間は最大16分も狂ってしまうこととなります。自分で確かめてみたい方はぜひ何日かごとに同じ時間の太陽の位置(あるいは太陽による影の位置)を記録してみてください。1年間記録を続ければ、8の字を描くように太陽の位置が変化していることがわかるはず。



夜空には、「反時計回り」で回る時計があります。それは、北極星を軸に、北斗七星を時計の針に見立てた星時計です。北斗七星は北極星の周りを約1日かけて回転します。その角度の大きさによって時間の経過を知ることができるのです。

「秒」まで刻む仙台市科学館の「水時計」  
国内でも希少！

北斗七星の「星時計」  
夜空の星も時計になる！

水時計のルーツは、紀元前16世紀ごろにエジプトで使われていた、容器から水を流し水面の高さで時間を計るというもの。写真はかなり発展した形で約40年前に物理学者が考案したのですが、管や球にたまる水の量で時間を刻む仕組み。



### エリートだけが持つ 出世時計！

1899年(明治32年)~1918年(大正7年)頃まで、旧帝国大学では成績優秀者に天皇からの御下賜品(ごかしひん)として銀の懐中時計が授与されていました。それが「恩賜の銀時計」。銀時計が贈られる卒業生は「銀時計組」と呼ばれ、エリート中のエリートとして出世が早かったと言われています。



# 水

## 仙台を豊かにしてきた「水のすがた」

伊達政宗によるまちづくりから発展してきた仙台は「社の都」と言われますが、まちの中央を流れる広瀬川をまちづくりに上手に活かしてきた水の都でもあります。江戸時代初期より開削されたといわれる水路は、高低差のある仙台の地形を上手に活かしながら多くの人に生活

用水や農業用水を行き渡らせました。また、運河の整備は物流を活発にし、経済を支えました。2011年の東日本大震災のときには、沿岸部にある堀の存在が減災に役立ったと言われています。「水」というキーワードは、仙台を語る上で大事な要素です。



## 水の「育み」

絶滅危惧種である「井土メダカ」は、すみかとしていた水路が震災後の圃場整備によってコンクリートで覆われたことで、水の流れが速くなり、巣をつくれなくなりました。現在、井土メダカはせんだい3.11メモリアル交流館のほか、沿岸部の各地域の人びとによって育てられています。



## 水の「源」

四ツ谷堰（青葉区郷六）



城下町仙台に水を行き渡らせていた四ツ谷用水。江戸時代初期に開削されたといわれる用水路は、広瀬川から取水され、梅田川に通じる本流のほか3本の支流とたくさんの支流から分水させてまち全体につながっていました。

## 水の「路」

大崎八幡宮太鼓橋下



写真提供/仙台市博物館

四ツ谷用水は、生活用水としてはもちろん、水車動力などの産業用水としても利用されました。明治以降、上下水道の整備とともにその役割は小さくなり、地下を流れる暗渠（あんきょ）となりましたが、防火消防用水として利用されるなど、今でも仙台の暮らしを支えています。

## 水の「音」



片平丁通の南端あたりに、川や水路は見えないのに水の音がする場所があります。この近くには仙台三名水のひとつ「鹿の子清水」という湧き水があるからで、かつてこのあたりは夏になると納涼に訪れる人でにぎわったそうです。今は水量が減りましたが、マンホールの下の清流の音を聞くことができます。

## 水の「恵み」

六郷堀・七郷堀分水ゲート



仙台市東部の広大な水田地帯は、広瀬川中流の愛宕堰から取水された七郷堀、六郷堀などによって今も潤われています。水路には水争いを避けるために分水ゲートがつくられるなど、さまざまな工夫が施されています。

# 未来への取り組み

出会う場所  
MAP  
P28・29A  
P30C

## 八木山動物公園フジサキの杜 スマトラトラの繁殖 (国際協力による絶滅危惧種の保全)



2013年に繁殖した四つ仔と母親のバユ

スマトラトラは、インドネシアのスマトラ島だけに生息するトラです。ベンガルトラやアムールトラなどの大陸に生息するトラに比べて、スマトラトラは島での生活環境に適応し体が小さいのが特徴です。また、体毛のオレンジ色が濃く、しま模様のコントラストがはっきりしていて美しいトラです。野生での生息数は300頭程度と考えられていますが、実際には密猟や生息地の分断が原因となり、その数は減少の一途をたどっています。

すでに絶滅の危機にあるスマトラトラを保全していくためには、数を増やす必要がありますが、それには生息地のインドネシアにとどまらない国際社会全体の協力が必要です。重要なのはスマトラトラの中で遺伝的に遠く、繁殖に取り組むのに適正なオスとメスを同じ動物園で飼育できるようにすること。遺伝的に繁殖に適したペアを形成するためにはトラの移動を行うのですが、一緒にするべきオスとメスが海外の動物園にいることもあり、動物園でペアを作るまでの過程は簡単なものではありません。国際会議に出席し繁殖計画にそって日本での計画を決めたり、トラを輸送するための書類上の手続きを行ったり、さらに猛獣であるスマトラトラを輸送箱に入れて飛行機に乗せ、到着した動物園では輸送箱から安全に出てもらう作業が必要です。

さてペアを作ったところで、繁殖がうまくいくとは限りません。飼育員と獣医師、大学の研究者が協力し行動観察や科学的な見地から繁殖に取り組みます。

仙台市では、このように多くの人関わった努力の結果、2011年(平成23年)にはハワイのホノルル動物園からオスのケアヒが、オランダのバーガーズ動物園からメスのバユが八木山動物公園にやってくることとなりました。それから2年後、このペアの間には四つ仔が生まれ、2019年(令和元年)にもオスが1頭生まれ、5頭とも無事に成長しています。野生での生息数が300頭程度であることを考えると、仙台で新しく5頭ものスマトラトラが生まれたことが、どれほど大きいことかがわかるかと思えます。

八木山動物公園フジサキの杜では、このスマトラトラを見ることが出来ます。その生態の特徴を知ることはもちろん、この種が置かれている厳しい現状も知り、わたしたち一人ひとりが自然保護の重要性を感じる事が大切です。



2019年10月生まれアオ(♂)

私たちがふだん見過ごしている身の回りに、あらためて見るとたくさんの発見があります。そんな発見を集め、まち全体がミュージアムになったとき、まちとミュージアムの関係は今よりずっと身近なものになるかもしれません。

ん。その一方で、専門機関としてのミュージアムには、大切なものを守り、育てて、未来に引き継いでいく大切な役割があります。そうした活動が、このまちを、広く世界に、また遠く未来に、つないでいる事例をご紹介します。

## せんだいメディアテーク 「3がつ11にちを わすれないためにセンター」 (東日本大震災のミクロな記録・発信)



福島県立博物館などとともに開催した展覧会「災害と暮らし」(2016)

「3がつ11にちをわすれないためにセンター」(略称: わすれん!)は、東日本大震災に向き合い、復興への長い道のりをともに歩むことを目的に、震災から約2か月後の2011年(平成23年)5月3日、せんだいメディアテークによって開設されました。市民、専門家、アーティスト、スタッフが協働し、復旧・復興のプロセスを独自に記録・発信するプラットフォームです。参加者には、撮影技術や取材経験は問いません。震災の伝承という目的に賛同した人がそれぞれ記録者となり、個人が体験した“その人の震災”を映像、写真、音声、テキストなどで記録しています。何を・どのように・何を用いて発信すべきか、目の前の情報と向き合い考えながら記録しています。そうして作られた記録には、記録された人の名前も、記録した人の名前も記されています。「誰がどんな震災体験をしたか」だけでなく「誰がどんな記録をしたか」という点からもアーカイブされているのが、わすれん!の特徴です。

集められた記録は、取材に協力していただいた人の許可を得たのち、ウェブサイトでの公開や、施設内ライブラリーでの閲覧が可能になっています。また、展示や上映会の開催、記録を囲み語る場など、さまざまなかたちで活用されています。

ウェブサイトは、オランダ王国の支援を受け、

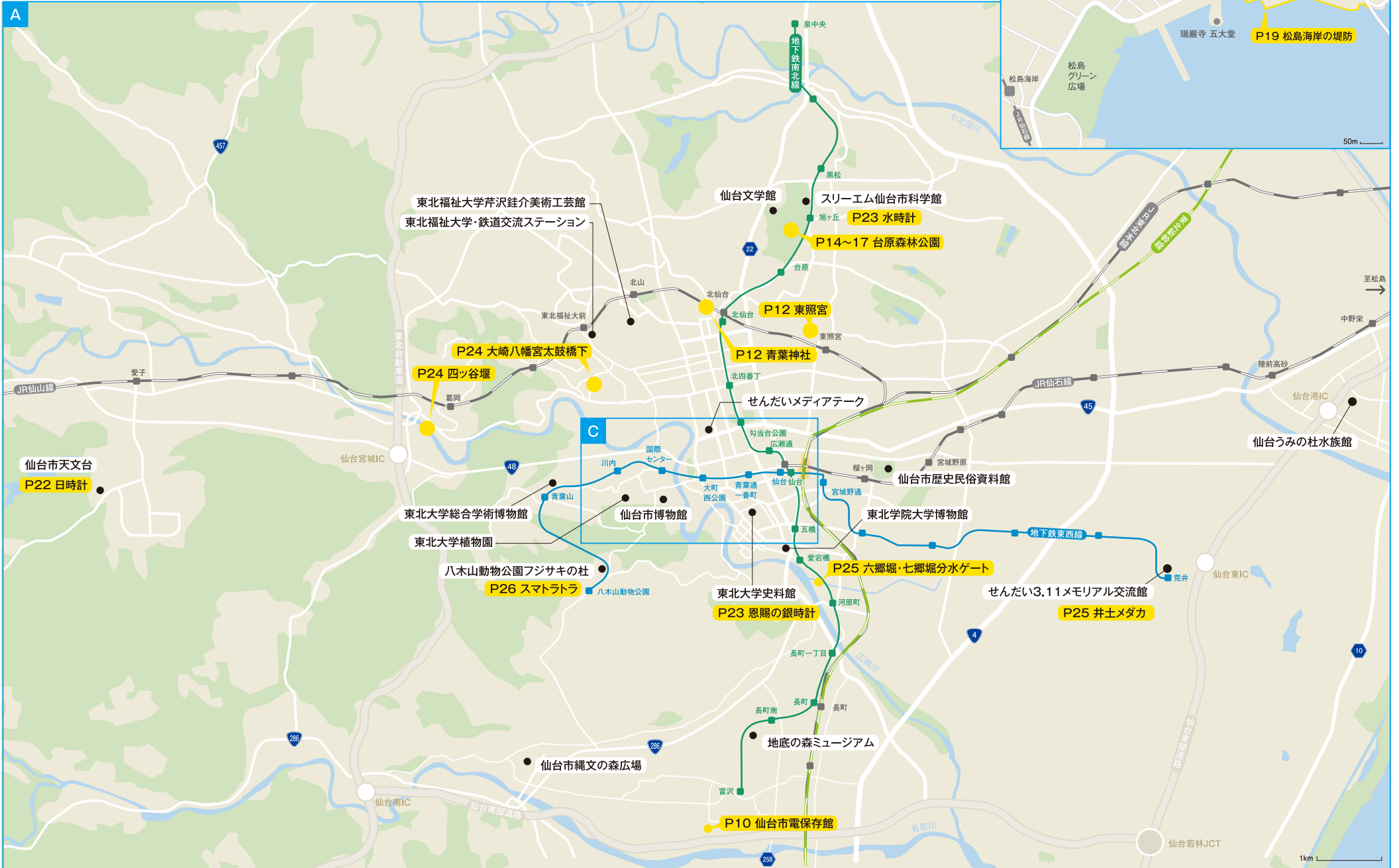
日本語ウェブサイトで公開している記録の一部を英訳し、2012年(平成24年)に英語ウェブサイトが公開されました。さらに2014年(平成26年)には、国立国会図書館が実施しているデジタルアーカイブ「東日本大震災アーカイブ『ひなぎく』」と情報の連携が開始されました。日本全国、そして世界各国へ、ミクロな被災体験を伝えていきます。

東日本大震災のような出来事は、大きな視点で報道されがちです。象徴的なニュースのみが取り上げられますが、“その時からのわたしたちがどう生きたか”を伝えることが、未来への大事なメモになります。見返して、思い出し、もう一度考え、手渡していく。震災から10年が経とうとしている今日も、「わすれん!」は未来につながるアーカイブを育てています。



多くの記録映像がDVDとなっている

# 出会う場所 MAP



※「出会う場所」の一部には、河岸などの水辺や崖の近く、交通の多い道路が含まれています。子どもだけで行くと危ない場合があるので大人と一緒にいきましょう。



# 出会う場所 MAP



※「出会う場所」の一部には、河岸などの水辺や崖の近く、交通の多い道路が含まれています。子どもだけで行く危険な場合があるので大人と一緒に行きましょう。

## どこでも ミュージアム

ミュージアムがつながること

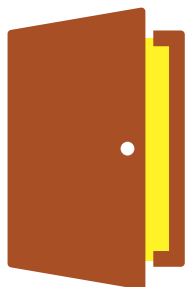
ミュージアムは博物館と訳されますが、中には美術館や歴史館、科学館、動物園や水族館などさまざまな種類の館園が含まれます。私たちの身の回りにも大小のミュージアムがあり、それぞれがその分野ごとの方法で私たちの「知りたい、感じたい」に応えてくれます。と同時に、ミュージアムは学校や図書館とおなじように、人間が、あるいは地域の人びとが長い歴史の中で積み上げ、磨き上げてきた知恵や文化を今に伝え、さらに未来に引き継ぐ役割をも担ってまいります。とりわけミュージアムは、あらゆる世代の人びとが、歴史や文化を伝える文化財や身の回りの自然のありように、より確かで体験的な学び、または感動をもって接することができる点で、ほかにはない存在と言えるでしょう。

その一方でミュージアムは、関心のない人びとからは無縁なところと思われがちな面もあります。人間の、あるいは地域の知と文化と言ってもそれはあまりに複雑で壮大で、個々のミュージアムがどれだけ努力しても、その一部分にしか触れることができず、いきおいミュージアムの本当の役割に気づかれにくくなってしまいます。ミュージアムが本来もっている力と社会的な役割を十分に発揮させるためには、より多くの人びとの関心を呼び覚ます工夫と同時に、それぞれのミュージアムをつなぎあい、さらに学校や図書館、地域ならではの多様な知的資源をまきこみながら、特性を活かし、その機能を発揮できるようにする必要がありますと考えています。

仙台・宮城ミュージアムアライアンス(SMMA)

は、私たちの社会の知や文化を下支えする基盤のひとつとして機能することをめざし、2009年に仙台を中心とする11館が参加するネットワークとして活動をはじめました。それ以降、東日本大震災をはさむ10年間、多少の増減を経ながら現在は17館(2020年3月)が参加して活動を続けています。よって立つ地域はおなじでも異なる館種どうして連携する経験はまだ浅いこともあり、何ができるか、何が効果的か、試行錯誤を繰り返しながら一步一步進んできました。

このさき、さらにこの活動を発展させていくためには、地域のさまざまな方々と力をあわせていくことが必要です。ミュージアムどうしのみならず、地域のさまざまな知的資源がつながって面となり、地域全体がどこでもミュージアムになる。そんなわくわくするようなまちをめざして、どうかみなさん、私たちSMMAと一緒に、この仙台の地に、より広く、より深く、より楽しい、私たちと未来のための知的、文化的インフラを築いてまいりましょう。



### 沿革



- 2009 ◎文部科学省「地域の地の拠点・ネットワーク推進事業」を受託し 仙台・宮城ミュージアムクラスター(SMMC)実行委員会発足
- 2010 ◎仙台・宮城ミュージアムアライアンス(SMMA)と改称し事業開始

#### 連携事業の開始

おなじ地域の館どうしが館種を越え連携して事業を行うことで、従来にない地域の知の集積と新たな活用が進み、地域文化の情報発信と未来への継承が可能になるとの考え方のもと、SMMAの基幹事業として開始した。

- 2009(-2011) ●クロストーク  
おなじテーマについて複数館のスタッフが語る会を連携事業の手始めに実施
- 2010(-2012) ●クロス展示  
おなじテーマをとりあげた展示を複数館で同時期に実施
- 2010(-2011) ●バスツアー  
学芸員企画のテーマでミュージアムや関連するスポットを巡るバスツアー
- 2010 ●見験楽学スタンプピクニック  
各参加館を巡り集めたスタンプの数に応じて素敵なプレゼントがもらえる
- 2010 ●ブックキャラバン  
学芸員やスタッフによる選書が市内の図書館を巡る

#### 情報発信

ミュージアムとそれをとりまく地域の情報をあわせて発信することで、単館ではできない、地域内外の利用者のニーズに応え、新たな期待を喚起することをめざす。

- 2010(-現在) ●フリーペーパー  
「旬の見験楽学便」発行
- 2010 ●情報誌  
「せんだいノート」制作  
(震災により発行見合わせ)



クロストーク「アフリカ象を見験楽学」(2009)  
仙台市八木山動物公園×仙台市科学館

プロジェクト 複数のSMMA参加館が外部のミュージアム等と連携する取り組み

- 2010(-現在) ◎仙台歴史ミュージアムネットワーク(歴ネット)  
SMMA内外の歴史・文化系の施設で2009年に結成した歴ネットがプロジェクト事業として活動開始。仙台の歴史・文化を解説する「歴ネットシート」を各参加館へ設置。

#### 参加館

仙台市科学館、仙台市天文台、仙台市富沢遺跡保存館、仙台市博物館、仙台市八木山動物公園、仙台市歴史民俗資料館、仙台文学館、せんだいメディアテーク、東北大学総合学術博物館、東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館、宮城県美術館

## 2011年3月11日 東日本大震災 発災

東日本大震災は、すべてのSMMA参加館や他のミュージアムにも多大な影響を与えた。被害の大小は異なるがそれぞれの館が活動を停止せざるを得ない中、SMMAも予定していた事業を中止する。その後、それぞれのミュージアムが再開するまでの道のりは、地域においてミュージアムが果たしうる役割を再発見するプロセスともなった。当たり前であったはずのもの

### ◎広域ネットワークによるライフライン支援

物流の停止により餌類の納入も止まった。八木山動物公園は日本動物園水族館協会に餌の支援を要請。支援は2011年3月18日から4月4日まで、4回にわたりに続いた。



仙台市八木山動物公園(2011)

### ◎文化財レスキュー事業の体制づくり

2011年3月末には、文化庁による大規模な文化財レスキュー事業の検討が始まった。その対象は、指定文化財や収蔵品に留まらず標本類や図書資料にもおよび、それらの救出と応急措置を全国の関係機関と協働して行うものとなった。4月15日に東京文化財研究所で第1回の救援委員会が開かれ正式に事業が開

始、19日には仙台市博物館に宮城県の実地本部が設置された。こうして全国のミュージアムの学芸員がレスキュー活動に参加できる体制が整っていった。地域でのレスキューを通じて改めて確認されたのは、平時からの分野や専門を超えて情報を共有することの大切さであった。

### ◎展覧会という手法の可能性

震災以降、ミュージアムにあっても、震災にどう向き合っていくかは、きわめて重要かつ繊細な課題となった。再開を果たした被災地の館に限らず、全国のミュージアムがそれぞれの立場や方法で震災を取り

上げることによって震災のありようを伝えるための努力をしている。ほかにも講演会、シンポジウム、見学会など手法は多様である。

#### 震災を とりあげた 展覧会

「それでも生きる!考古学から見る災害のあと」地底の森ミュージアム(2012)  
 「蒲生干潟の今・昔」スリーエム仙台市科学館(2012)  
 「牡鹿半島・海の暮らしの風景展」東北学院大学博物館(2014)  
 「記録と想起・イメージの家を歩く」せんだいメディアテーク(2014) など

### 連携事業

2012(～現在) ●SMMAミュージアムユニバース  
 それぞれのミュージアムが、とっておきのトーク、体験プログラム、展示とともに、せんだいメディアテークに大集合。ミュージアムの「すてき・ふしぎ・おもしろい」を伝える恒例イベントとして、毎年12月に開催。



ミュージアムユニバース(2016)

### 情報発信

2013(～2015) ●スマートフォン・アプリを開発し、運用



東日本大震災の影響で発行が困難になった「せんだいノート」は、その後、東京の三樹書房に引き継がれ、出版された(2011)

### プロジェクト

2012(～現在) ◎歴ネットの活動  
 歴ネットの新たな取り組み「仙台の伝統門松の復元・展示」、「歴ネットクイズラリー」、「歴ネットフェスタ」が始まる。

2012(～2013) ◎「ニューせんだいノート」、「ニューニューせんだいノート」の発行

SMMA各館の協力を得ながら、せんだいメディアテークによる「せんだいノート」の続編となるような小冊子が発行される。



ニュー  
せんだい  
ノート  
(2012)



ニューニュー  
せんだい  
ノート  
(2013)

2012(～2013) ◎デスティネーションキャンペーンへの参加

仙台・宮城デスティネーションキャンペーンにSMMAの連携を活かして参加。バスツアー、せんだいミュージアムバス「ミュージアムバス」、ミュージアムクルーズMAPの発行、スタンプピクニックや秋保温泉・作並温泉連携事業など、多様な事業を展開した。

## 連携事業

**2015(-現在)** 連携強化と事業の持続性向上に向けて、運営体制の自主的な見直しを行い、全館による運営会議のかわりに、幹事館による幹事会、広報企画部会、研修・交流企画部会を発足。

## 研修会

参加館からの要望に応じて、ミュージアム運営にまつわるさまざまなトピックについて学び、研修する機会を設ける。

- 2015(-現在)**
- ・仙台うみの杜水族館の概要と展示、広報等について
  - ・学芸員の仕事-文化財の取り扱いについて実技を通して学ぶ会-
  - ・障害者の博物館施設利用について
  - ・ポスター・チラシ制作の極意あれこれ
  - ・襖と屏風の構造を知ろう
  - ・こども向けイベントの手法について
  - ・ミュージアムのためのSNS活用術
  - ・博物館職員のためのマーケティング講座
  - ・文化財の梱包・輸送について
  - ・地域のミュージアムがつながること -SMMAのこれまでとこれから-
  - ・ミュージアムで使える英会話研修会

## プロジェクト

- 2014** ◎文化庁 地域と協働した美術館博物館創造活動支援事業
- ・国連防災世界会議を契機とする国際化対応等事業として「東日本大震災とミュージアム」を発行する。
  - ・ミュージアム情報基盤づくり事業に取り組む。

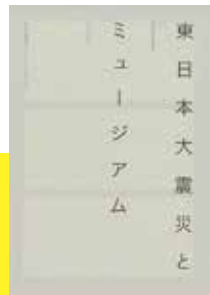
## 情報発信

**2015(-現在)** ●ポスター  
春のイベントが掲載されたポスターを地下鉄全駅に掲示



～電車で行こう春のミュージアム～新！仙台発見電(2017)

**2018(-現在)** ●Twitter運用開始  
アカウント  
@smma\_sendai



## 連携事業

- 2016(-現在)** ●見験楽学ツアー  
ミュージアムのおすすめルートを学芸員と一緒にまわるツアー
- ① 仙台裏道さんぽ 一福島美術館創設者・禎蔵翁の足跡を訪ねて
  - ② 太古の仙台再発見! 一広瀬川の地層と火砕流
  - ③ 古絵図でたどる伊達政宗の城ツアー 一仙台城に登城する
  - ④ 6年目の被災地をめぐるバスツアー 一荒浜・野蒜・石巻
  - ⑤ 井上ひさしと吉野作造をつなぐ旅 仙台・古川バスツアー
  - ⑥ 向山から読み解く“仙台” 一パノラマ絵葉書でタイムスリップ
  - ⑦ 鉄道の裏がわ探検ツアー
  - ⑧ 片平まつりジョイント企画「片平キャンパス歴史散歩」
  - ⑨ 伊達政宗生誕450年記念  
学芸員リレートークつき ミュージアム周遊政宗バスツアー
  - ⑩ 7年目の被災地をめぐるバスツアー  
一石巻日和山公園・大川小学校旧校舎
  - ⑪ 鉱山の町・細倉の記憶をたどる 一寺崎英子が残した写真から
  - ⑫ 福島美術館と裏道さんぽ 一福島禎蔵が愛した土樋・米ヶ袋
  - ⑬ 片平キャンパス歴史散歩
  - ⑭ 学都仙台Walker 一近代高等教育のおもかげを訪ねて
  - ⑮ 片平キャンパス歴史散歩



⑥ 向山から読み解く“仙台” (2017)



⑮ 片平キャンパス歴史散歩 (2019)

- 2019(-現在)** ●ミュージアムトークテラス  
おいしい料理や飲み物とともに学芸員や専門スタッフの話を聞くミュージアムトークテラス。ミュージアムユニバースの人気企画が単独開催されることに。
- 10周年記念事業「SMMA」見験楽学ブックキャラバン
- 学芸員おすすめの本の展示  
2010年の図書館連携事業のリバイバル企画



第1回ミュージアムトークテラス (2019)

- 2015(-現在)** ◎こども☆ひかりプロジェクトへの参加  
東日本大震災をきっかけに、兵庫県立人と自然の博物館など、全国各地のミュージアムがこども向けワークショップを行うプロジェクトに参加。

## なにか一緒にできるかも 一私のSMMA的思考回路



仙台市博物館  
樋口智之

今日、仙台市天文台に歩いて行きました。我が家から一番近いSMMA参加館です。到着後、まずプラネタリウムを観ました。解説の方が優しい声で語るオリオン座や「冬の大きな三角」についてのエピソードを聞きながら、私は幼い頃に母が冬の夜空を指さして星の名を覚えてくれたことを思い出していました。



プラネタリウムが終わり、展示室へ。天井近くに浮かぶ巨大な木星と土星が視界に入っただけで胸が高鳴ります。順路に従って進むと、ある場所で足が止まりました。そこは地球のコーナーで、パネルのタイトルは「自転軸の傾きが四季を作る」。解説には次のように書かれていました。「季節が生じるのは、地球の自転軸が一定の角度で傾いたまま、太陽のまわりを公転しているからです。そのため、太陽の南中高度や昼夜の長さが周期的に変化し、季節の変化が現れます」。その理屈にうなずきつつ、心は「四季」という文字に反応していました。



仙台市博物館に学芸員として勤める私の専門分野は、日本の絵画の歴史です。日本の絵画には、例えば「四季花鳥図」と呼ばれる作品をはじめとして、四季折々の花を描いたものがたくさんあります。色彩に

あふれた絵画が描かれ、愛されてきたのも、季節ごとに自然が見せる表情が豊かだったからで、それも、たどりたどれば、地球の自転軸が傾いていたおかげか、と妙な感慨にふけたのです。



この感慨もまた、プラネタリウムで母のことを思い出したのと同じく、ごくごく個人的な体験に過ぎないものですが、だからこそというべきか、私としては満たされた気持ちで天文台を後にしたのです。帰り道、頭の中を占めていたことがありました。「四季」というものについて、文学館の人だったらどんなことを考えるのだろうか？ 短歌や俳句のことかな？…。縄文の森広場の人だったら？…。鉄道交流ステーションの人だったら？…。3.11メモリアル交流館の人は？…。「四季」をテーマに各館の学芸員が語り合ったらどんなふうになるだろう、きっとそれぞれの観点から「四季」にまつわる自然と人との関わりを語ってくれるだろう、と夢しているうちに家にたどり着きました。



こんな夢を抱くのも、SMMAがあったからです。10年前にSMMAができていなかったら、たぶんこんなことは考えていなかったでしょう。

SMMAでは、複数の館が一つのテーマで話を持ち寄り「リレートーク」や2館で行う「クロストーク」を開催したり、複数の館が共同する「クロスイベント」を開催したりするなど、異なる分野のミュージアムの集合体ならではの取り組みを行ってきました。だから、「なにか一緒にできるかな」と自然と考えるようになったのです。

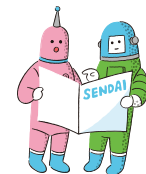


クロストークで実績のある八木山動物公園を例にいくつか抜き出してみると、文学館と開催した「絵本動物園」、天文台とは「知られざる天空の動物たち」、地底の森ミュージアムとは「地底の森動物園・開園！ー動物園の人がみた昔の動物たちー」。そして仙台うみの杜水族館との「知られざる動物たちのカップル事情」は、「プレミアムナイトトーク」として夜に開催し、お客様にはドリンクを片手に動物公園と水族館のスタッフによる寸劇を交えた解説を楽しんでいただきました。

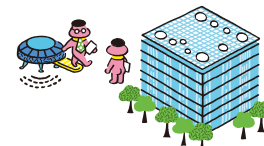


この「カップル事情」の企画は、SMMA参加館の会合とその後に行われた情報交換会の会話の中で生まれました。最初は排泄にまつわる話に花が咲いたのですが、次第に動物たちの求愛行動に話に移りました。水族館や動物公園の方から語られる、目を丸くするようなエピソードに私たちは身を乗り出して聴き入り、「それ面白い」「それで行こう」となったのです。こうした普段の交流の中で企画・開催に結びつく場合もあります。

ミュージアムが手をつなぐことによって、新しい発見があったり、単独ではできないことができたりするようになります。トークやイベントの場所も、他館に出かけたり、街中だったり、と外に出る機会が増えました。それもまたSMMAの効果と言えるでしょう。お客様にはそこで興味をもっていただいたら、ぜひそれぞれのミュージアムに足を運んでいただきたいと思っています。なんといっても、私たちが最も力を注いでいるのは展示活動なのです。そして観覧を通してさまざまな体験をしていただければ幸いです。



冒頭で述べた私の「個人的な体験」の場合と同様に、お客様それぞれの心の中に起きる体験は、その方が歩んできた道のりに基づくものなので、誰一人としてピタリと一致する同じ体験はないでしょう。仙台市博物館の私が思いおこすのは、震災をはじめとする色々なつらい思いを抱えながらも展覧会にお越しいただき、美しい色で描かれた絵画や、厳かな中にも優しさを感じさせる表情の仏像を前にして、私たちの展示意図をはるかに超える深い体験をされた方々がいらっしやっただけです。本当に、感じる、考えることは千差万別です。だからこそ、重なるところで共感したり、違いを知ることでそれがまた新鮮な体験となったりするのでしょう。そのようなさまざまな体験の場としてミュージアムが機能することが、そこで働く私たちの喜びであり、活動の糧ともなっています。



これから、お客様がより豊かな体験ができるよう、SMMAの参加館が手をつなぎ、互いの活動を高めあっていけるようにしていきたいと思っています。

## ミュージアムの新たな時代としてのSMMA



東北大学総合学術博物館  
小川知幸（西洋史）

## 少しだけ、 時の扉をひらいてみましょう。

紺碧色の地中海に面した海岸沿いに、紀元前332年、東方遠征を終えたアレクサンドロス大王は一つの町を建設しました。大王は、隆起した石灰岩から延びる砂洲の上を歩く聖人の幻影を見たといいます。町は大王にちなんでアレクサンドリアと名付けられました。アラビア語でアル=イスカンダリーヤと呼ばれるこの町に、大王の遺志を継いだプトレマイオス朝の開祖プトレマイオス1世ソテルが、ムセイオンという学園を建設しました。ムセイオンとは、学芸の女神ムーサイの住まう場所という意味で、現在のミュージアムの語源となったことばです。ソテルは大王が目をかけた将軍の一人であり、また、大王は哲学者アリストテレスの弟子でもありました。アリストテレスの学園リュケイオンにも備えられていたという学芸の女神の祠(ほくら)をわが町にも造りあげたい。それは王の誇りでもあったのです。

ムセイオンには、あまたの学者が呼び寄せられました。図書館も作られ、70万巻にもおよぶ書物が蔵されていたといいます。学者たちは共同で食事をとり、庭園や柱廊のあいだを歩きながら議論しました。動物園や植物園や水族館も作られていたようです。

現在もなお、ムセイオンが町のどこにあり、どのような建物だったのか、正確なことは何一つわかっていません。考古学的調査にもかかわらず、石材のひとかげらさえてこないからです。一説には女王クレオパトラの、プトレマイオス13世への謀反に加勢したカエサルが放った火によって焼かれてしまったのだとかい

ずれにしてもアレクサンドリアとムセイオンは、その後のローマ人、アラブ人、そしてトルコ人の支配のなかで、静かに千年もの長い沈黙を守りました。

ヨーロッパ中世になると、さまざまなコレクションはキャビネットと呼ばれる王侯貴族の陳列室に収められるようになりました。イタリアではストゥディオーロ(小書齋)、ドイツではヴンダーカンマー(驚異の部屋)などとも呼ばれ、学者たちはそこに通って研究を続けました。小さな部屋に収められたコレクションは、王侯貴族の権力を誇示しながらも、世界を映すミクロコスモス(小宇宙)と見做されました。

この状況を大きく変えたのがフランス革命でした。1793年に革命政府は、王侯から解放したコレクションに、初めてミュージアムということばをあてたのです。現在、フランス国立自然史博物館(Muséum national d'Histoire naturelle)と呼ばれる施設は、このとき生まれました。ミュージアムは特定の誰かの持ちものではなく、公共のものとして社会に向けてひらかれたのです。世界を形づくる小さな宇宙は、誰の目にも触れるものになり、人びとはそれをつうじて時間と空間をこえた世界の広がりを知り、自分たちがどこにいて、これからどのように社会を作りあげればよいかを考えることができるようになったのです。

その系譜にあるのがイギリスの大英博物館やアメリカ合衆国のスミソニアンなどです。ひるがえってわが国では、福澤諭吉が慶応2年(1866)に出版した『西洋事情』のなかで「ミュゼム」を博物館と訳しました。ただし、明治に開設された帝国博物館(帝室博物館)は、荘厳壮麗なコレクションを開陳し、国威を発揚する役割が期待されていました。

## さて、わたしたちは、 時の扉から 現代へと戻ってきました。

20世紀半ばになると、ミュージアムはハンズオンと呼ぶ体験型・参加型の仕組みを採用入れます。収集や保存や研究のような「知の生産」とあわせて社会教育や展示にもちからを入れて、「ひらかれたミュージアム」となりました。類似施設も増加していきました。文部科学省の統計(2016年)では、全国で5,683の施設があるそうです。

しかし、ミュージアムとはいったい何なのでしょう。結論から言えば、ミュージアムとは、新たな発見の機

会(Opportunities for New Discovery)なのです。発見とは、あたえられたものではなく、問いかけた結果、拓かれるものです。学芸員たちは、資料や標本などをつぶさに調べることで、新しい、ものの見方を提示できないかとつねに模索しています(その限りで、学芸員は社会の少数派です)。

2009年にSMMA(仙台・宮城ミュージアムアライアンス)という仕組みが産声を上げました。現在では17館園の連携機構です。この仕組みによって学芸員がさまざまなジャンルをこえて、また館の枠組みもこえて、みなさんの目の前に立つことができるようになりました。窓口がひとつになり、どのような疑問や質問にも、すぐさま適任の学芸員が選ばれ、あるいはみずから立ち上がり、膝詰めで答えたり、いっしょに考えたりします。時代が変わると、わたしたちは悩み、問いかけます。ミュージアムもそれとともに変化します。新たな時代のミュージアムは、一人ひとりの発見であり、本書に現れているように、その一つのかたちがSMMAなのです。

# よみもの大集合

SMMAが始動して以来、各館の魅力やさまざまに広がる活動を紹介するリーフレットや定期刊行物、英語でのミュージアムにまつわる話題提供やアクセス紹介など、これまで数々の発行物を作成してきました。近隣するミュージアムがイベント時に一堂に

会すこともあります。それらをトピックにあわせて紙面に定着させることで、それぞれに専門性の分かれるミュージアムの「間」を感じ取ることができるものとなっています。



## せんだいノート

2011年3月に仙台・宮城のミュージアム情報誌として発行・無料配布を予定していたが、東日本大震災のため発行中止。同年10月に三樹書房から書籍として出版・発売された。身の回りの話題や、地域の文化を支える人びとを幅広くとりあげ、また、東北6県のミュージアム913館の震災直後の再開状況を掲載した。



著者：仙台市教育委員会（監修）、  
仙台・宮城ミュージアムアライアンス（編者）  
発行：公益財団法人仙台市市民文化事業団  
発行年月：2011年10月  
価格：1,470円（税込）  
発売（販売窓口）：三樹書房  
ISBNコード：978-4-89522-581-6



## SMMAリーフレット

SMMAとは何かを伝えるリーフレット。2009年の発行以降、2013年、2015年、2017年とカレンダー付きやチケットフォルダなど、形状や機能を変えながらSMMAのメッセージを伝えるツールとして作成してきた。



リーフレット第1号



イベントカレンダー



## 仙台ミュージアムクルーズMAP

2013年4月から6月の仙台・宮城デザインেশョンキャンペーンにあわせ、ミュージアム基本情報や見どころのほか、各館が紹介する仙台市内のおすすめスポットを掲載した地図を発行。市内観光案内所や主要ホテルでも頒布した。



## 東日本大震災とミュージアム

岩手、宮城、福島3県のミュージアムにおいて、震災に関連して起きたいいくつかの出来事を取りあげ、テーマごとにその概略を振り返るパネル展示とともに制作した冊子。



2015年3月発行

## 旬の見験楽学便

参加館を中心に展開される展示やイベント情報を届けるフリーペーパーとして2010年秋に誕生。名称は、地元の方も旅行者にもおおいに役立つ、楽しみながらさまざまな発見や体験をさせていただくためのウェブサイト「見験楽学」から命名した。



2010年秋号  
見験楽学  
stamp picnic



2011年秋号  
11月上旬八木山動物公園に  
フタコブラクダの「ラフ」が  
仲間入りします!



2012年春号  
「紙が運んだ」物語—  
SMMAクロス展示  
でみる仙台・宮城の出版文化



2013年春号  
ようこそ!  
春たけなわのミュージアムへ!!



2013年冬号  
12館大集合!  
ミュージアムユニバース  
〜すてき・ふしぎ・おもしろい〜



2015年春号  
Hello!  
センダイミュージアム



2015年冬号  
東西・南北・街の魅力と  
ミュージアムが交差する



## Welcome to Sendai's Museums

「旬の見験楽学便」の英訳版として、2015年3月、国連防災世界会議仙台開催にあわせて発行。仙台の文化は、外国の方にはどのように映っているのかを、仙台で暮らす留学生やCIR(国際交流員)へのインタビューで紹介。



2015年春号  
Hello!  
センダイミュージアム

## The Sendai Museum Experience

外国人の視点から仙台のミュージアムの魅力を紹介するリーフレット。英語、中国語（繁体字）、中国語（简体字）、韓国語、日本語の5種類で、2015年1月と3月に発行。2018年3月からは英語・日本語版で発行。



The Sendai Museum Experience 01  
(英語版)



The Sendai Museum Experience 02  
(英語版)



The Sendai Museum Experience 03  
(英語・日本語版)



\*現在入手可能なや書店で  
購入可能なものもあります。  
お気軽にお問い合わせください。

## 新しい! 旬の見験楽学便

ミュージアム巡りを楽しむ特集、ショップやカフェも紹介する「ミュージアムdeブレイクタイム」、参加館ゆかりの人物にせまる「シリーズ人」、学芸員がつづる「学芸員のひと休み」と、2017年に内容をリニューアル。バッグに入れやすいA5サイズに。



2017年春号  
てくてく春のミュージアム散歩  
土樋〜米ヶ袋〜川内界隈



2017年夏号  
ミュージアムで  
感じる「涼」



2017年冬号  
ミュージアムで  
“福”さがし!



2018年春号  
てくてく春のお散歩MAP  
国見〜子平町〜八幡界隈



2018年夏号  
今行くべき  
旬なミュージアム



2018年冬号  
食にまつわるエトセトラ  
あったかミュージアム鍋



2019年春号  
てくてく春のお散歩MAP  
仙台駅東口・新寺〜榴岡〜宮城野



2019年秋号  
ミュージアムのお仕事図鑑  
「なおす」編

もっと楽しくもっと学べるミュージアムを目指して。

# SMMA

SENDAI MIYAGI MUSEUM ALLIANCE

仙台・宮城ミュージアムアライアンス

## SMMAとは

仙台・宮城地域のさまざまなミュージアムが協働することで、地域にとってより有益な機能を獲得していくための共同事業体です。各館の学芸員や専門職員が持つ知識やノウハウを集積し、単独では実現困難な新たな価値の創出を行い、地域のニーズに合った新時代のミュージアムになることを目指しています。

SMMAではミュージアムをより魅力的にしていこうと目指し、以下の3つの観点による取り組みを行っています。

### つながる

専門分野をこえた複数のミュージアムが共同で、楽しみながら発見・体験ができるプログラムを実施します。

### つたえる

ミュージアムの新しい魅力やかくれた面白さを発見していただくため、さまざまな切り口からミュージアムにまつわる多彩な情報をお伝えします。

### ひろがる

図書館や学校、観光など地域のさまざまな資源と連携し、私たちのまちを豊かにしていきます。

\*1 祝休日が休館日にあたる場合、その日は開館します。その場合は祝休日の翌日が休館日となります。 \*2 年末年始は閉館しています。  
※臨時で開館時間や休館日を変更する場合があります。詳細については各館へお問い合わせください。

## 仙台うみの杜水族館

豊かな日本の海や自然環境を体感できる大水槽、海の生きものたちによる東北最大級のパフォーマンスなど様々なコンテンツを有する水族館です。

開館時間 9:00-17:30 (入館は閉館の30分前まで) ※季節によって変動あり  
休館日 なし  
住所 〒983-0013 仙台市宮城野区中野4-6  
TEL 022-355-2222



## せんだい3.11メモリアル交流館

東日本大震災の記憶と経験を媒介に、コミュニケーションを通じて知恵と教訓を紡ぎだし、未来へ、世界へとつないでいく拠点です。

開館時間 10:00-17:00  
休館日 月曜、祝日の翌日\*1 \*2  
住所 〒984-0032 仙台市若林区荒井字沓形85-4 (地下鉄東西線荒井駅舎内)  
TEL 022-390-9022



## スリーエム仙台市科学館

緑豊かな台原森林公園内に建ち、自然史系、理工系、生活系の3つの展示室に参加体験型の展示物がたくさんあります。

開館時間 9:00-16:45 (入館は16:00まで)  
休館日 月曜、祝日の翌日、第4木曜\*1 \*2  
住所 〒981-0903 仙台市青葉区台原森林公園4-1  
TEL 022-276-2201



## 仙台市天文台

口径1.3mの「ひとみ望遠鏡」やプラネタリウム、展示室等を備えた天文総合博物館です。

開館時間 9:00-17:00  
(土曜日は21:30まで、展示室は17:00まで、最終入館は閉館30分前まで)  
休館日 水曜、第3火曜\*1 \*2  
住所 〒989-3123 仙台市青葉区錦ヶ丘9-29-32  
TEL 022-391-1300



## 地底の森ミュージアム (仙台市富沢遺跡保存館)

富沢遺跡から発見された2万年前の人類の生活跡と森林跡を保存し、公開しています。

開館時間 9:00-16:45 (入館は16:15まで)  
休館日 月曜、祝日の翌日、第4木曜 (12月に臨時休館の場合あり)\*1 \*2  
住所 〒982-0012 仙台市太白区長町南4-3-1  
TEL 022-246-9153



## 仙台市縄文の森広場

山田上ノ台遺跡で発掘された縄文時代のムラを、植生環境とともに復元しています。土器づくりなどの体験活動を実施しています。

開館時間 9:00-16:45  
(入館は16:15まで、体験活動の受付は9:00-11:30、12:30-15:00)  
休館日 月曜、祝日の翌日、第4木曜\*1 \*2  
住所 〒982-0815 仙台市太白区山田上ノ台町10-1  
TEL 022-307-5665



## 仙台市博物館

伊達家寄贈文化財をはじめ、仙台に関わる歴史・文化・美術工芸資料等を収蔵し、常設展では随時約1,000点を展示しています。

開館時間 9:00-16:45 (入館は16:15まで)  
休館日 月曜、祝日の翌日\*1 \*2  
住所 〒980-0862 仙台市青葉区川内26  
TEL 022-225-3074





## 八木山動物公園フジサキの杜

世界各地に生息する約125種600頭の動物たちを飼育・展示している東北最大級の動物園です。



**開館時間** 3-10月 9:00-16:45(入園は16:00まで)  
11-2月 9:00-16:00(入園は15:00まで)

**休館日** 月曜\*1\*2  
**住所** 〒982-0801 仙台市太白区八木山本町1-43  
**TEL** 022-229-0631

## 仙台市歴史民俗資料館

県内最古の洋風木造建築である旧陸軍兵舎を利用し、明治時代以降の仙台の歴史と人々の暮らしを紹介しています。



**開館時間** 9:00-16:45(入館は16:15まで)

**休館日** 月曜、祝日の翌日、第4木曜\*1\*2  
**住所** 〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-3-7(榴岡公園内)  
**TEL** 022-295-3956

## 仙台文学館

明治以降の郷土ゆかりの文学者、土井晩翠や島崎藤村をはじめ、井上ひさし初代館長や現在活躍中の作家を紹介しています。



**開館時間** 9:00-17:00(入館は16:30まで)

**休館日** 月曜、祝日の翌日、第4木曜(12月を除く)\*1\*2  
**住所** 〒981-0902 仙台市青葉区北根2-7-1  
**TEL** 022-271-3020

## せんだいメディアテーク

図書館、ギャラリー、スタジオ、映像音響ライブラリーなどの機能を備えた、市民の美術や映像文化の活動拠点です。



**開館時間** 9:00-22:00(一部サービスは時間が異なります)

**休館日** 第4木曜(ライブラリーは月曜、祝日の翌日休館)\*1\*2  
**住所** 〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1  
**TEL** 022-713-3171

## 東北学院大学博物館

東北学院大学での研究成果をもとに、歴史や文化に関する様々な展示・企画を行う大学博物館。学芸員養成の場としての役割も担っています。



**開館時間** 9:30-17:00(入館は16:30まで)

**休館日** 日曜、祝日\*2  
**住所** 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1  
**TEL** 022-264-6920

## 東北大学総合学術博物館(理学部自然史標本館)

大学の研究者たちが世界中から集めた珍しい化石や鉱物、土器や石器、骨格標本、有孔虫、サンゴなどを展示しています。



**開館時間** 10:00-16:00

**休館日** 月曜、お盆、8月最終日曜\*1\*2  
**住所** 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3  
**TEL** 022-795-6767

## 東北大学史料館

大学の記録を保存・公開する日本初の施設で、公開資料は実際に利用することが出来ます。登録有形文化財の建物も見所です。



**開館時間** 10:00-17:00

**休館日** 土曜、日曜、祝日(企画展期間は臨時開館日有)\*2  
**住所** 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1(東北大学片平キャンパス内)  
**TEL** 022-217-5040

## 東北大学植物園

1600年の仙台築城以来、「御裏林(おうらばやし)」として保護されてきた森林-天然記念物「青葉山」-を散策できる自然植物園です。



**開館時間** 9:00-17:00(入館は16:00まで)

**休館日** 月曜 \*開園期間は春分の日~11月30日  
**住所** 〒980-0862 仙台市青葉区川内12-2  
**TEL** 022-795-6760

## 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

型絵染の人間国宝・芹沢銈介の作品を紹介する大学付属の美術館。芹沢が生み出す美しい色彩と斬新なデザインを紹介。



**開館時間** 10:00-16:30

**休館日** 要問合せ  
**住所** 〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1 国見事務室  
**TEL** 022-717-3318

## 東北福祉大学・鉄道交流ステーション

東北福祉大学が運営する駅前の鉄道資料館。東北を中心に鉄道の歴史・文化をテーマにした企画展と、日独の鉄道模型が併走する模型館を、学生だけでなく一般の方にも公開。



**開館時間** 10:00-16:00(鉄道模型館は企画展開催期間内の土曜日のみ 10:30-16:00)

**休館日** 日曜、月曜、祝日\*2  
**住所** 〒981-8523 仙台市青葉区国見1-19-1 ステーションキャンパス館3F  
**TEL** 022-728-6612



「今 見ヨ イツ 見ルモ」 芹沢銈介 和紙 型絵染 1960年頃  
東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館所蔵

染色家・芹沢銈介が生涯の師と仰いだ思想家・柳宗悦(やなぎむねよし)の『心傷(こころうた)』の一句を文字模様として和紙に染めた作品

### 「今 見ヨ イツ 見ルモ」

初めて「今見る」想いで見ることである。――

たとえ昨日見た品でも、今日見なければいけない。眼と心が何時も新しく働かねば、美しさはその真実の姿を現してはくれぬ。何も美しさのこのみではない。一切の真なるものは、今見る時にのみ、残りなく、その姿を現してくれる。それは即今に見ることであり、真に見ることは、その即今以外の出来事ではない。

― 柳宗悦『心傷』自註自解より 抜粋 ―

仙台・宮城ミュージアムアライアンス  
10周年記念誌  
せんだい見験図鑑

#### [発行]

仙台・宮城ミュージアムアライアンス  
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1  
(せんだいメディアテーク内)  
tel 022-713-4483 fax 022-713-4482  
<https://www.smma.jp>

#### [編集]

仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局  
株式会社ユーメディア

#### [表紙イラスト]

ツジモトシホ

#### [デザイン]

UNI de Gran 根本 弥

#### [謝辞]

本誌の制作にあたり、東北大学永廣昌之  
名誉教授ほか、多くのみなさまにご協力い  
ただきました。

2020年9月発行

無断複写・転載を禁じます